

## 概要

## OECDに対する厚生労働省の財政的貢献の推移

| 年度        | Ⅱ部分担金      |          |                               | 任意拠出金      |          |
|-----------|------------|----------|-------------------------------|------------|----------|
|           |            |          |                               |            |          |
| 2004(H16) | 54,275ユーロ  | 6,947千円  | (化学品プロジェクト)                   | 413,000ドル  | 45,430千円 |
| 2005(H17) | 88,765ユーロ  | 12,072千円 | (化学品プロジェクト)                   | 324,933ユーロ | 44,191千円 |
| 2006(H18) | 66,725ユーロ  | 9,075千円  | (化学品プロジェクト、<br>地域経済雇用開発プログラム) | 324,933ユーロ | 44,191千円 |
| 2007(H19) | 102,839ユーロ | 15,117千円 | (化学品プロジェクト、<br>地域経済雇用開発プログラム) | 300,619ユーロ | 44,191千円 |
| 2008(H20) | 109,022ユーロ | 17,881千円 | (化学品プロジェクト、<br>地域経済雇用開発プログラム) | 276,977ユーロ | 45,425千円 |

- (注) 1. OECDの活動は、Ⅰ部分担金(全加盟国に共通する利害に関する中核的な活動に充てられるもの。外務省が一括して拠出)、Ⅱ部分担金(一部の加盟国が参加するプロジェクトに充てるもの)及び任意拠出金(加盟国が任意にプロジェクトに拠出するもの)により運営されており、厚生労働省はⅡ部分担金や任意拠出金を通じて財政的貢献をしている。
2. 任意拠出金は、主に雇用政策、医療政策、社会政策等の分野に対し拠出している。

## 国際交流

## 概要

## 国際交流の概要

厚生労働省では、厚生分野、労働分野における先進国共通の課題解決に資するため、政府間交流を行っている。

## 1. 近年の厚生分野における主な政策対話(過去3年)

| 時期       | 名称(開催地)            | 参加国                    | テーマ             |
|----------|--------------------|------------------------|-----------------|
| 2005年10月 | 日・北欧高齢化セミナー(東京)    | ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、日本 | 地域における高齢者介護のあり方 |
| 2007年 4月 | 日中韓三国保健大臣会合(韓国)    | 中国、韓国、日本               | 鳥・新型インフルエンザ対策   |
| 2007年 5月 | 日・北欧高齢化セミナー(ノルウェー) | ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、日本 | 認知症と倫理・技術       |

## 2. 近年の労働分野における主な政策対話(過去3年)

| 時期       | 名称(開催地)          | 参加国      | テーマ                               |
|----------|------------------|----------|-----------------------------------|
| 2006年 3月 | 日・EUシンポジウム(ベルギー) | 欧州委員会、日本 | グローバル化の中での雇プロイアビリティの向上            |
| 2006年 4月 | 日韓政労使交流(東京)      | 韓国、日本    | 高齢者雇用促進政策                         |
| 2006年11月 | 日独政労使交流(東京)      | ドイツ、日本   | 就業促進施策(若年者、高齢者及びパートタイム労働者)、最低賃金制度 |
| 2007年11月 | 日仏セミナー(フランス)     | フランス、日本  | 女性の就労促進と家庭生活の両立                   |
| 2008年1月  | 日・EUシンポジウム(東京)   | 欧州委員会、日本 | 雇用・就労形態の多様化                       |